

第4学年 国語科学習指導案

平成25年12月5日(水) 5校時
4年2組(男子15名 女子10名 計25名) 本時4/11
授業者 才市 美奈

- 1 単元名 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう
教材名 「世界一美しいぼくの村」(東京書籍4年下)

2 単元の見目標

- 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読み、ショーウィンドウでその心を伝えようとする
ことができる。(関心・意欲・態度)
- 本のショーウィンドウで紹介したい物語の良さを説明するために場面の移り変わりに注意して、
登場人物の家族やふるさとを思う気持ちを感じながら、自分の心に響く思いをはっきりさせて
読むことができる。(C 読むこと(ウ))
- 家族やふるさとを思う心など、自分の心に強く響いてきたことをショーウィンドウで友だちに
伝え、物語と関連するテーマの本を読み広げることができる。(C 読むこと(カ))
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、家族やふるさとを思
う気持ちや本の紹介をショーウィンドウにまとめることができる。(言 イ(ア))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り
変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して
読むこと。」「カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を具体化した「家
族やふるさとを思う心をえがいた本を読み、ショーウィンドウにまとめ、友だちに伝える。」とい
う言語活動を位置づける。

ここで取り上げる「ショーウィンドウ」は、物語と関連するテーマの本を自分で選び、「家族や
ふるさとを思う気持ちを感じながら、自分の心に強く響いてきたことを工夫してまとめる」という
ものである。ショーウィンドウのパーツとして、「本の簡単な紹介文」「家族やふるさとを思う気持
ちが伝わってきた場面」「その場面を選んだわけ」を取り上げ、まとめていく。そのために、テー
マに沿った本を読み、叙述を基に家族やふるさとを思う人物の気持ちを想像してまとめることが必
要となる。このことにより、本単元でねらう「場面の移り変わりに注意して、登場人物の家族や
ふるさとを思う気持ちを感じながら、自分の心に響く思いをはっきりさせて読む力」の育成と「主
体的に関連する本を読み広げていく」活動にする。

本教材は、パグマンの村に住む少年ヤモの一日を通して、家族愛や郷土愛がえがかれている。
そして、パグマンの村が戦争で破壊され今はないという急展開の衝撃的な一文で結ばれている。
この一文に対して思いを巡らせ、ヤモの家族やふるさとへの思いを想像し交流することのできる
教材である。

(2) 児童観

児童は、6月単元「走れ」では、登場人物の人柄や中心人物の気持ちの変化を考えながら読み、
自分のお気に入りの本を選んでグループで音読劇を発表した。10月単元「ごんぎつね」では、心
に残った出来事を『ごん日記』にまとめ、さらに三次では、新美南吉作品を読んで、中心人物にな
りきって書く『〇〇日記』を書いて交流し合う学習を行った。児童は、「ごん日記」では、出来事

や場面の様子から中心人物の気持ちの変化をとらえ、日記に書くことが出来ていた。しかし、三次では、中心人物の変化をとらえ、『〇〇日記』に表すことには個人差が見られた。

標準学力調査の結果を見ると、「読む」領域は全国平均を下回っていて、物語に関しては、登場人物の様子をとらえる内容の正答率が低い結果となっている。また、「国語への関心・意欲」観点や「書く」領域にも個人差が見られ、課題がある。学習においても自分の思いを分かりやすく話したり書いたりして伝えることに抵抗がある児童もいて、これらのことから、叙述を根拠に登場人物の心情を想像したり、学び合ったりすることに個人差があると考えられる。

(3) 指導観

第一次の単元の導入では、教師のショーウィンドウによる本の紹介を聞く。これは、1学期に学習した家族を思う心をえがいた「走れ」をもとにして、教師が作成したものである。そして、「家族やふるさとを思う心をえがいた本をショーウィンドウで紹介しよう」という学習のめあてを知る。

第二次は、自分で選んだ本のショーウィンドウを作ることに向けて、「世界一美しいぼくの村」を読み、心に響いたことを本のショーウィンドウにまとめていく活動になる。まず、本のショーウィンドウの構造を確かめ、「世界一美しいぼくの村」をどのように読んでいくのか、学習全体の見通しを持たせたい。そして、物語の設定と人物像をとらえ、心に響くところを探しながら、叙述を基に場面の様子や、中心人物やモの家族やふるさとを思う気持ちについて想像させたい。また、物語の最後の一文に対する一人ひとりの思いをショーウィンドウのパーツとして考えたり、家族やふるさとへの思いを感じ取らせたい。さらに、「世界一美しいぼくの村」を読み、自分の心に響いた場面を大切にしながら作ったショーウィンドウを交流し合い、これからどんな物語のショーウィンドウにしていくのか意識を高めていきたい。

第三次では、第二次から朝読書などで続けている並行読書と第二次でショーウィンドウにまとめたことをふまえて、今度は自分が選んで読んだ本の家族やふるさとを思う心をショーウィンドウにまとめていく。その後、ショーウィンドウで本を紹介し、感想を伝え合う学習を行う。これらの学習を通して、児童の読書生活が豊かに広がることを目指したい。

(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、児童自身が学ぶ目的や見通しを持って言語活動を進めていく展開にする必要がある。「家族やふるさと」は、児童にとって身近に感じられるテーマで、単元を通して、心に響くところを意識しながら読むことを大事にしていきたい。さらに並行読書で物語と関連する本を読み広げ、本のショーウィンドウ作りを通して自分の心に響いたことを友だちに紹介する活動は、叙述をもとに登場人物の気持ちを感じながら読み進めていくことにつながり、児童が主体的に学習する力を身につけていくと考えている。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・家族やふるさとを思う心をえがいた本を読み、ショーウィンドウでその心を伝えようとしている。
読む能力	・本のショーウィンドウで紹介したい物語のよさを説明するために、場面の移り変わりに注意して、登場人物の家族やふるさとを思う気持ちを感じながら、自分の心に響く思いをはっきりさせて読んでいる。(ウ) ・物語と関連するテーマの本を進んで読んでいる。(カ)
言語についての 知識・理解・技能	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、家族やふるさとを思う気持ちなどをショーウィンドウにまとめている。(イ(ア))

<言語活動のモデル「本のショーウィンドウ」>



本の扉には
本の簡単な紹介文
を書きます。



○場面をえらんだわけ
○自分の思い

家族やふるさとを思う気持ちが
伝わってきた場面

5 単元構想図

単元を貫く言語活動

家族やふるさとを思う心をえがいた本を読み、ショーウィンドウにまとめ、友だちに伝える。

◇学習の流れ

第一次

- 自分が選んで読んだ本のショーウィンドウを作成し、友だちに紹介するという学習の流れの見通しをもつ。
 - 「世界一美しいぼくの村」の読み聞かせを聞き、心に残ったことを話し合う。
- ※図書支援員と連携して、並行読書ができるように、家族やふるさとを思う心がえがかれた本をそろえておき、紹介する。

並行読書

第二次

- ショーウィンドウの構造を確かめ、「世界一美しいぼくの村」をどのように読んでいくかを見通す。
- 心に響いたところを探しながら読む。
 - ・物語の設定と登場人物をとらえる。
 - ・中心人物の家族やふるさとを思う気持ちを話し合う。
 - ・物語の最後の一文について考える。
 - ・心に響いた場面をまとめる。
- 「世界一美しいぼくの村」で作った本のショーウィンドウを交流し合う。

第三次

- 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読んで、ショーウィンドウにまとめる。
- 自分が選んだ本のショーウィンドウを友だちに紹介し、交流し合う。

◇意識の流れ

【児童の実態】

叙述を根拠に人物の気持ちを想像して読むことには個人差が見られる。

- ・家族やふるさとを思う心ってどういうことだろう。
- ・読んでみたい本がたくさんある。この中から選んで、先生が紹介してくれたようなショーウィンドウを作るんだね。

- ・中心人物はヤモだ。
- ・ヤモは、家族やパグマンの村のことを大事に思っているのだろうか。
- ・村は戦争で…。ヤモと家族はどうなったのだろう。
- ・心に響いてきた場면을ショーウィンドウにまとめてみよう。

- ・読んだ本の中で、心に響いてきた場面は…。
- ・中心人物の家族やふるさとを思う心が伝わるようにショーウィンドウにまとめよう。
- ・ショーウィンドウで紹介して、友だちにもこの本を読んでもらいたいな。

単元で付けたい力

- ・場面の移り変わりに注意して読み、中心人物の家族やふるさとを思う気持ちをとらえる力。
- ・関連する本を進んで読み広げていく力。

6 指導計画及び評価計画（全11時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	○「世界一美しいぼくの村」の読み聞かせを聞き、心に残ったことを話し合う。 ○ショーウィンドウによる本の紹介を聞き、「家族やふるさとを思う心をえがいた本を読み、本のショーウィンドウで友達ちに紹介する」という学習のめあてをもつ。	【関】 物語に興味をもち、並行読書やショーウィンドウなどこれからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (発言・行動観察)
第二次	2	○本のショーウィンドウの構造を確かめ、学習全体を見通す。	【関】 ショーウィンドウを作るためのパーツを考えようとしている。 (発言)
	3・4 (本時) ・5・6	○心に響くところを探しながら読む ○物語の設定、登場人物をとらえる。 ○行動や会話などの叙述をもとに、中心人物の家族やふるさとを思う気持ちについて話し合う。 ○物語の最後の一文に対する思いをショーウィンドウのパーツとしてまとめる。 ○自分の心に響いた場面の紹介をまとめる。	【読】 物語の場所や状況、登場人物をとらえている。 (ノート、発言) 【読】 中心人物の行動や会話などの叙述をもとに、家族やふるさとを思う気持ちを想像して読んでいる。 (ノート、発言) 【読】 物語の最後の一文について、それまでの叙述をもとに自分の考えをもち、ショーウィンドウのパーツにまとめている。(パーツ) 【関】 自分の心に響いたところを進んでまとめようとしている。(ノート)
	7	○作ったショーウィンドウを交流し合い、これから作るショーウィンドウの見通しをもつ。	【言】 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (ショーウィンドウ)
第三次	8	○ショーウィンドウにまとめることを意識しながら、選んだ本を読み進める。	【読】 心に響いた場面、言葉、どんな心がえがかれているかを意識して、本を読んでいる。 (行動観察・ノート)
	9・10	○読んだ本にえがかれている心や人物の気持ちをショーウィンドウにまとめる。 <内容> ・本の題名、作者名 ・本の紹介 ・家族やふるさとを思う気持ちが伝わってきた場面 ・自分の思い	【読】 家族やふるさとを思う心をとらえ、ショーウィンドウにまとめている。 (ショーウィンドウ)
	11	○.ショーウィンドウを紹介し、感想を伝え合う。	【関】 ショーウィンドウで紹介された本を進んで読もうとしている。 (行動観察・感想カード)

7 学習の展開

第一次 1時間目（1／11）

- (1) 目標 家族やふるさとを思う気持ちがえがかれている物語に興味を持ち、学習のねらいを知ることができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 「世界一美しいぼくの村」の読み聞かせを聞き、心に残ったことを話し合う。 ・教材文「世界一美しいぼくの村」の範読を聞く。	○心に残ったことを伝え合い、これからの学習につなげていくことができるように、中心人物が家族やふるさとを強く思っていること、最後の一文について考えたことなどを取り上げる。
学習のねらいや流れをつかもう。	
2 ショーウィンドウによる本の紹介を聞き、これからの学習のめあてをもつ。 ・教師が作った「走れ」の本のショーウィンドウによる紹介を聞く。 ・本単元の学習全体の流れを見通す。	○6月に学習した「走れ」の物語にえがかれている家族を思う心をショーウィンドウにまとめたものを提示することで、学習のめあてをもつ。 ☆物語に興味をもち、並行読書や本のショーウィンドウを作ってみようというこれからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関】（発言・行動観察）
3 並行読書として、家族やふるさとを思う心がえがかれた本を知る。	※学習の流れを提示するとともに、事前に作っておいた本のショーウィンドウを見せることで具体的なイメージを持たせる。
4 本時の学習のまとめと次時の学習について知る。 家庭学習 場面の様子を想像しながら音読してくる。	○次時は、本のショーウィンドウ作りについて確かめ、「世界一美しいぼくの村」を読んでいくことを予告する。

第二次 1時間目（2／11）

（１）目標 ショーウィンドウの構造を確かめ、学習全体を見通すことができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 本のショーウィンドウにはどんなことが書かれているのかな。	○前時の学習をふり返り、単元全体のめあてである本のショーウィンドウ作りについて、何をどのように書いているのか確かめていく。
2 ショーウィンドウには、どんな内容があるか気づいたことを発表する。 ・題名 ・作者名 ・心に響いたところ - 中心人物の気持ち - 自分の思い ・本の紹介 3 本のショーウィンドウを意識しながら、「世界一美しいぼくの村」を読む。	○自分の心に響いてきた場面を選んでいくこと、中心人物の言動など叙述を基に想像したことを書いていること、自分の思いも書いていることをおさえる。 ☆ショーウィンドウを作るためのパーツを考えようとしている。 【関】（発言） ※パーツごとに指し示しながら、一つずつ聞いていく。 ○本のショーウィンドウには、心に響いたところをまとめるということをおさえる。 ○学習の視点（中心人物気持ち、心に響いたところなど）を持たせ、付箋をつけながら読ませる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 場面の様子や登場人物を考えながら音読してくる。	○次時は、物語の設定と登場人物をとらえることを予告する。

第二次 2時間目（3／11）

- （１）目標 心に響くところを探しながら読み、物語の設定と登場人物についてとらえることができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 物語の設定や登場人物を知ろう。	○本時のめあてを確かめ、物語の場所や時、登場人物について考えていくことを確認する。
2 課題を解決する。 （１）物語の登場人物をおさえる。 ・中心人物ヤモ ・家族 ・町で出会った人たちなど （２）物語の設定をとらえる。 ・アフガニスタン ・パグマンの村	○叙述もとに登場人物を考えた後に、中心人物はだれか、ヤモの生活やヤモの家族を中心に物語が展開していることに気づかせる。 ○教科書の叙述をもとにアフガニスタンやパグマンの村がどんな所かを見つけさせる。 ○世界地図や挿絵を掲示し、叙述と重ねて国や村のイメージを持たせる。
3 自分が感じたことを交流する。 ・個人思考 ・全体交流	☆物語の場所や状況、登場人物をとらえている。 【読】（ノート、発言） ※板書を参考にしながら、自分なりの思いをもつことができるようにする。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 ヤモの家族を思う気持ちやふるさとを思う気持ちを想像しながら全文を読んでくる。	○次時は、ヤモの家族やふるさとを思う気持ちについてみんなで考えていくことを知らせる。

第二次 3時間目（4／11） 本時

- （１）目標 行動や会話などの叙述をもとに、ヤモの家族やふるさとを思う気持ちを感じ取ることができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 ヤモは家族やふるさとを大事に思っているだろうか。	○前時の学習をふり返し、本時の課題へと結びつける。
2 課題を解決する。 （１）家族やふるさとを思っていることが分かるヤモの言葉や思いを見つける。 （２）ヤモの行動や会話、思ったことから家族やふるさとに対する気持ちについて考え、話し合う。 ・兄さんのことが心配 ・帰ってくるといった春が待ち遠しい。 ・やっぱり自分の村が一番だな （３）家族やふるさとを思っているヤモについて自分の考えを書き、本時のまとめをする。	○全体で一つを取り上げ、家族やふるさとを思っている言葉（「 」）であることを確認する。 ○そのほかにもあることに気づかせ、個人思考ができるようにする。 ○ヤモの行動と登場人物との会話を整理することで、家族やふるさとへの思いを持ち続けていることに気づかせる。 ○友達の見解を聞き合い、自分の思いも広げさせる。 ☆中心人物の行動や会話などの叙述をもとに、家族やふるさとを思う気持ちを想像して読んでいる。 【読】（ノート、発言） ※ヤモの家族を表す言葉（父さん、兄さん）やふるさとにかかわる言葉（パグマン）が手がかかりになることを知らせる。
3 次時の学習について知る。 家庭学習 最後の一文について考えながら全文を読んでくる。	○次時は、最後の一文についてみんなで考えていくことを知らせる。

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

- ◆行動や会話などの叙述をもとに、中心人物の家族やふるさとを思う気持ちをとらえ、自分の考えを書いている。

ヤモは、「ハルーン兄さん早く帰っておいでよ。」と言ったり、子羊にバハール（春）という名前をつけたりして、兄さんのことを待っていて、やさしいなあと思いました。

A 十分満足できる状況

- ◆行動や会話などの叙述をもとに、中心人物の家族やふるさとを思う気持ちの変化をとらえ、自分の考えを書いている。

ヤモは、町でも兄さんのことを思い出したり、子羊にバハール（春）という名前をつけて、兄さんが帰ってくる春を待っていていつも家族のことを思っていると思いました。

パグマンのことを「世界一美しいぼくの村」と思っていて、ふるさとが大好きなことが伝わってきました。

(4) 板書計画



第二次 4時間目（5／11）

（１） 目標 物語の最後の一文について自分の思いをもち、話し合う中で自分の考えを深める。

（２） 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 最後の一文で考えたことをショーウィンドウにまとめよう。	○最後の一文について思ったことをショーウィンドウのパーツとしてまとめるという本時のめあてを確認する。
2 課題を解決する。 （１）最後の一文を読んで自分が感じたことや考えたことをノートに書く。 （２）全体交流をして、考えを深める。 （３）最後の一文に対する思いをショーウィンドウのパーツとしてまとめる。 ・ペアで交流し合う	○最後の一文に対する思いを自分の言葉で書かせる。 ○ヤモのふるさとへの思い、春を待っていた気持ちなどを振り返りながら書かせる。 ○戦争で破壊されたものや、なくならなかったもの、ヤモたちや村はその後どうなったと思うかなどを考え、読みを深める ☆物語の最後の一文について、それまでの叙述をもとに自分の考えをもち、ショーウィンドウのパーツにまとめている。 【読】（パーツ） ※友だちの感じたことを聞き合うことで各自の考えが深まっていくようにする。
3 本時の学習のまとめと次時の学習について知る。 家庭学習 自分の心に響いた場面のパーツを作ることを考えながら全文を読んでくる。	○戦争で破壊されたヤモのふるさと（パグマンの村）となくならなかった家族の結びつきをふり振り返りながら、自分の心に響いた場面をショーウィンドウのパーツとしてまとめしていくことを知らせる。

第二次 5時間目 (6/11)

- (1) 目標 自分の心に響いた場面を叙述をもとにショーウィンドウにまとめていくことができる。

- (2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 課題をつかむ。	○「世界一美しいぼくの村」を読んで、中心人物の家族やふるさとを思う気持ちが表れている場面など、自分の心に響いてきたところをショーウィンドウのパーツとしてまとめていくことを確かめる。
自分の心に響いてきた場면을まとめよう。	
2 課題を解決する。 (1) 心に響いてきた場面を選ぶ (2) ショーウィンドウのパーツとしてまとめる。	○世界一美しいぼくの村のどの場面か、どの文章表現か、中心人物の思いなど書いてあることをもとにまとめていくことを確かめる。 ☆自分の心に響いたことを進んでまとめようとしている。 【関】(ノート) ※前時までの学習を振り返りながら、第一次で紹介した教師の作ったショーウィンドウを参考にまとめるよう助言する。
3 次時の予告をする。 家庭学習 自分のショーウィンドウを紹介できるように練習してくる。	○次時は、仕上げた自分の心に響いたところを紹介し合う活動であることを知らせる。

第二次 6時間目（7／11）

- （１）目標 作ったショーウィンドウを交流し合い、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時のめあてを確かめる。 心に響いた場面のショーウィンドウを紹介しよう。	
2 「世界一美しいぼくの村」を読んで心に響いた場面のショーウィンドウを班で紹介しあう。 ・友だち同士意見を伝えあう。	○同じ本を読んでも友だち同士、感じ方に違いがあることにふれる。 ☆言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 【言】（ショーウィンドウ） ※友だちの心に響いたことを考えながら聞き、感想を伝え合わせる。
3 本時の学習のまとめと次時の学習を知る。 家庭学習 家族やふるさとを思う心を感じながら、並行読書してきた本を読んでくる。	○次時から、家族やふるさとを思う心をえがいた本を並行読書してきた中から、自分の心に響いた場面をショーウィンドウにまとめていくことを伝える。

第三次 1時間目（8／11）

（１）目標 ショーウィンドウにまとめることを意識しながら本を読むことができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 友だちに紹介したい場面を選びながら本を読もう。	○心に響いてきたところを探しながらショーウィンドウにまとめることを意識して本を読み進めていく本時のめあてを確認する。
2 並行読書で読んできた本から選んだ本を友だちの紹介することを意識しながら読み進める。 （１）家族やふるさとを思う心確かめながら本を読む。 （２）ショーウィンドウの紹介に向けて、まとめることを確認し、ノートに書き留めていく。 ・本の題名、作者 ・本の紹介 ・心に響いた場面 中心人物の家族やふるさとを 思う心 ・自分の思い	○並行読書をしてきた本の、家族やふるさとを思う心確かめながら読むようにさせる。 ☆家族やふるさとを思う心をとらえ、ショーウィンドウにまとめている。 【読】（ショーウィンドウ） ※自分の心に残った場面に付箋をし、文章中の言葉をノートにメモしながら書いていくようにさせる。
3 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しを持つ。 家庭学習 ショーウィンドウ作りを意識しながら、選んだ本を読んでくる。	

第三次 2・3時間目（9・10／11）

（１）目標 本にえがかれている心や人物の気持ちをショーウィンドウにまとめる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 自分の心に響いた場面をショーウィンドウにまとめよう。	○本時のめあてを確かめ、自分の思いがはっきり伝わるようにショーウィンドウを作っていくことを確認する。
2 課題を解決する。 （１）ショーウィンドウにまとめることを確認する。 （２）心に響いてきた場面のショーウィンドウのパーツをノートをふり返りながらまとめていく。	○中心人物の言動に着目して読み、書いてあることから想像することを思い出させる。 ○前時のノートをふり返りながら、まとめていく。 ○友だちが読みたくなるような表現を工夫するように助言する。 ☆家族やふるさとを思う心をとらえ、ショーウィンドウにまとめている。 【読】（ショーウィンドウ） ※中心人物のしたこと、会話文に着目させその時、どんな思いだったと思うか想像させる。
3 次時の学習について知る。 家庭学習 自分が紹介したい本のショーウィンドウを練習してくる。	○一人ひとりが選んだ本のショーウィンドウを紹介し合い、感想を伝えあうという次時の学習を予告する。

第三次 4時間目（11／11）

（1） 目標 本のショーウィンドウを紹介し、感想を伝え合うことができる。

（2） 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 課題をつかむ。 自分が作ったショーウィンドウを紹介し、感想を伝えよう。	○本時のめあてを確かめ、班のみんなに伝えるように発表することを確認する。
2 一人ひとりが作った本のショーウィンドウを紹介しあう。 （1）完成したショーウィンドウを発表する。 （2）本の紹介を聞いて感想をカードに書き、心に残ったところを伝え合う。	○本の紹介を聞いて感想をカードに書き、それぞれの発表者に渡すようにさせる。 ☆ショーウィンドウで紹介された本を進んで読もうとしている。 【読】（行動観察・感想カード） ※感想は本の内容に関わって書くように助言する。
3 学習を振り返り、今後の読書活動へと生かす。	○本のショーウィンドウ紹介を聞いて、興味を持った本をいつでも読めるように引き続き本を置いておく。